

## リネンチェンジにおける学生の行為の特徴：身体性・順序性の観点から

著者名(日)	明野 伸次
雑誌名	北海道医療大学看護福祉学部学会誌
巻	7
号	1
ページ	71-78
発行年	2011-03-31
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1145/00007011/">http://id.nii.ac.jp/1145/00007011/</a>

# リネンチェンジにおける学生の行為の特徴 身体性・順序性の観点から

明野 伸次

北海道医療大学看護福祉学部

## キーワード

リネンチェンジ リネン交換 看護技術 身体性 順序性

## はじめに

看護基礎教育において看護実践能力の育成が課題とされている。この看護実践能力の育成に関して、「何」を教授するかを明らかにする試みとして「看護技術における行為の構造化」の研究を進めてきた<sup>1)~6)</sup>。この研究では、看護師が行う看護技術の場面から、身体の扱いという看護技術の特性に注目し、行為に内在する目的や方法、順序性から行為を抽出し構造化した。第5報ではリネンチェンジの構造化を行い、どの看護技術にも含まれる基本構造や、体幹の下のシワを取り除き摩擦力を頼りにシーツを敷く順序や足下のゆるみを持たせるための身体の使い方などが明らかになった<sup>5)</sup>。さらに、これらの先行研究で見出された行為の構造を枠組みにして、学生の行為の特徴を明らかにする研究を進めている<sup>7)</sup>。血圧測定技術の行為の構造をを枠組みに、学生の行為の特徴を明らかにした研究では、寝衣やマンシェットといった道具と受け手の腕を同時に扱う身体性を内包した行為が困難であるなどの学生の行為の特徴が明らかになった。学生の行為の特徴を明らかにすることは、看護技術を修得する際の困難な部分が明らかになり、看護基礎教育において「何」を教授するかの一助になると考えられる。そこで、本研究では、リネンチェンジの行為の構造を枠組みに、リネンチェンジにおける学生の行為の特徴を明らかにすることを目的とした。

## 目的

リネンチェンジにおける学生の行為の特徴を明らかにする

## <連絡先>

明野 伸次

〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757

北海道医療大学看護福祉学部看護学科

実践基礎看護学講座

TEL：0133-23-1859

E-mail：akeno@hoku-iryu-u.ac.jp

## 方法

### 1. 研究デザイン

撮影映像の解析による質的記述的研究

### 2. 用語の定義

身体性；看護師が自らの身体を介して受け手の身体に働きかけるとき、双方が知覚する身体の有り様

順序性；看護技術を構成する行為のつながり

### 3. 対象

#### 1) 対象学生の条件

本研究は、リネンチェンジにおける学生の行為の特徴を明らかにすることを目的としているため、リネンチェンジに関する講義、学内演習が終了した2年次学生5名とした。

#### 2) 対象学生におけるリネンチェンジの教育背景

リネンチェンジに関する講義・演習は2年次前期に開講されている。講義においては、単元「看護技術の基本」の中で、療養環境の特徴・整備の一部としてリネンチェンジの意義・目的を教授している。演習においては、先行研究で得られたリネンチェンジの行為の構造などを参考に自作のテキストを作成し、事前に熟読することを課題として提示している。このテキストに基づいて、学生は床頭台側とその反対側の2名で臥床患者のリネンを交換する。ベッドのリネンは、マットレスパット、敷きシーツ、掛けシーツ、羊毛毛布、スプレード、枕カバーで構成され、交換するリネンは、敷きシーツ、掛けシーツ、枕カバーである。また、臥床患者の条件は自力での体動は困難であるが関節可動域に障害はなく、会話は可能とした。

### 4. データ収集

学生が実施するリネンチェンジの場面を、デジタルビデオカメラで撮影した。撮影では、手元、上半身、身体全体の映像を収録できるように、9台のカメラを設置した(図1)。患者役は学生とは面識のない研究協力者1名とした。なお、リネンチェンジ方法は、1人で行うリネンチェンジであり、臥床患者の条件や交換するリネンは学内演習と同様とした。

### 5. データ分析

#### 1) 分析の枠組み

本研究では、先行研究で得られたリネンチェンジの行為の構造を分析枠組みとした(表1)。リネンチェンジの行為の構造は、11つの行為と、これらの行為を構成する行為の要素からなる。行為は、その構成するすべての行為の要素が実施されて成立する。また、行為と、一部の行為の要素には下記のプロセスが存在する。以下、リネンチェンジを構成する行為を〈 〉、行為を構成する要素を《 》で表す。

(1)ケア関係/ケア空間を作りからその解消に至るプロセス(図2)

リネンチェンジは〈ケア空間/ケア関係を作る〉〈リネンの入り方に見合った方法で外す〉〈シーツを敷く

ための空間を作る〉〈体幹の下のシワを取り除き摩擦力を頼りにシーツを敷く〉〈足元のゆるみと肩まで覆える長さを維持してリネンを掛ける〉〈ケア空間/ケア関係を解消する〉という行為のプロセスで構成されている。〈患者の身体を扱う際の身体空間を作る〉〈中心線を基にリネンを扱う〉〈扱うリネンを巻き込まずにマットレスの下に手を差し入れてリネンを入れる〉〈患者の反応に注目する〉〈患者と協働する〉はこのプロセスにおいて繰り返し出現する行為である。

(2)リネンチェンジにおける行為の固有の順序性(図3.4)

リネンチェンジの行為には、前述の全体的なプロセ

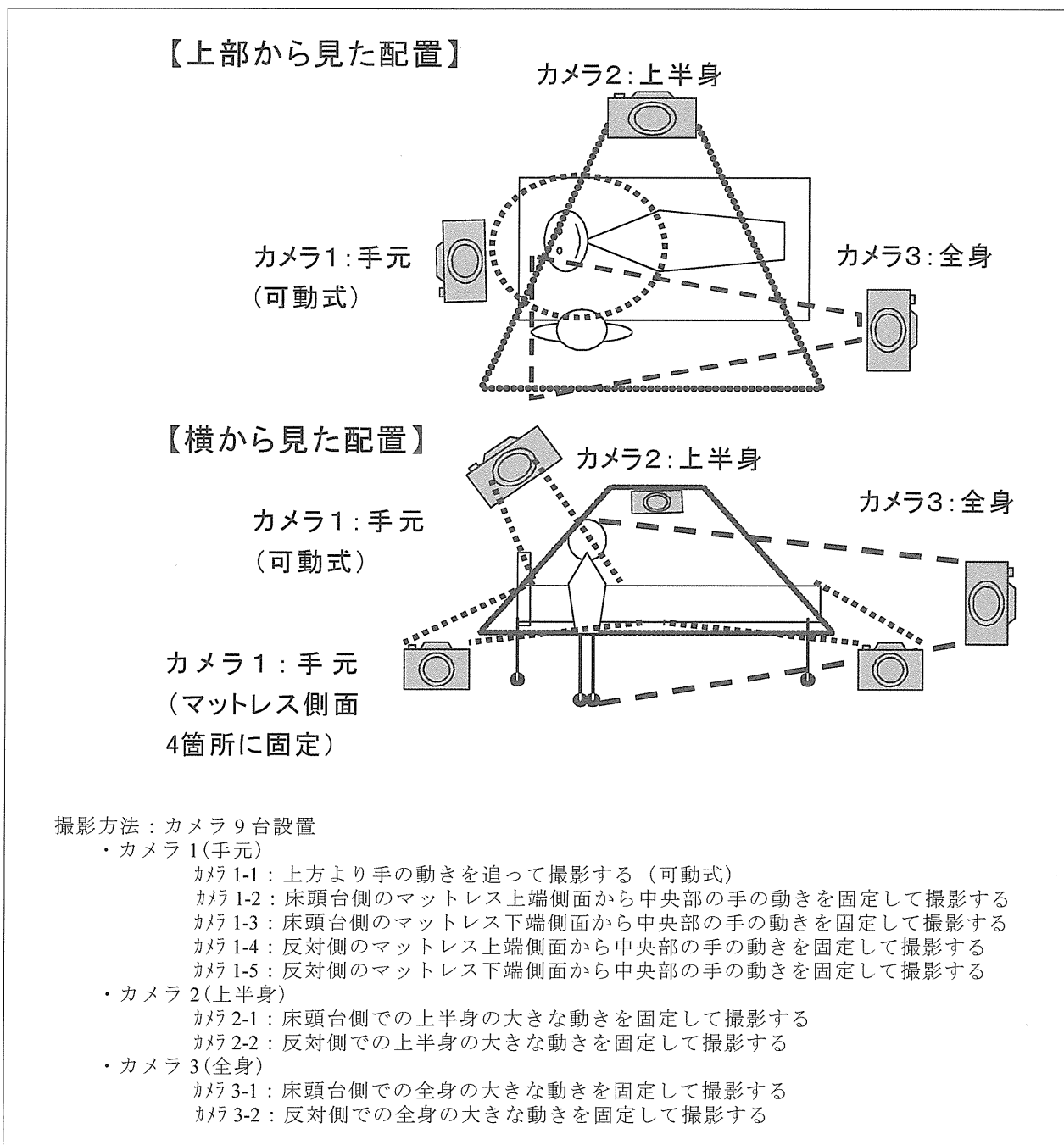


図1 カメラ配置図

表1 リネンチェンジおける行為

行 為	行 為 の 要 素
A ケア空間/ケア関係を 作る	近づく/説明する/挨拶する ベッドの高さを調整する/病床付属品を移動する/キャスターを対角線上に整える
B リネンの入り方に見 合った方法で外す	床頭台側の角のシーツの重なりを順次に外す *斜め頭側を向き、膝を曲げた姿勢で、マットレス角の側面のシーツを引き出し、順にマットレス上端のシーツを 引き出す 側面のリネンは頭から足元に向かってマットレスを持ち上げずに引いて外す *斜め足元側に向きを変え、頭から足元に向かってマットレス側面のリネンを引いて外す 反対側の角のリネンの重なりを一気に外す *斜め頭側を向き、膝を曲げた姿勢で、頭側(足下側)の三角の重なりを一度に掴んで外す
C シーツを敷くための空 間を作る	新しいシーツを広げる空間を作るために患者を移動させる *側臥位にする/仰臥位にする 側臥位の状態古いシーツをベッドの中心辺りまで体幹に添わせる
D 体幹の下のシワを取り 除き摩擦力を頼りにシ ーツを敷く	連続した身体の動きで三角のシーツの重なりを作る *斜め頭側(足下側)を向き、膝を曲げた姿勢で足を前後に開き、マットレス上(下)端中央部辺りからシーツを 足元側に引き入れマットレスを置く *マットレスとシーツが直角になるように、角とマットレス側面のシーツを引き、緩めずに押さえながら、その場 の位置で身体の向きをマットレスと垂直になるように変え、手の甲を上にして、膝を曲げシーツをマットレスの 下に入れる *マットレス側面の上部を指や手で押さえ返して折り返し、手の甲を上にしてシーツを入れる 作られている角の摩擦力を頼りにシーツを伸ばしてマットレスの下に入れる *斜め枕元を向いて、シーツをたくし持って、足元側に引く(床頭台の足元側) *ベッドに垂直に向いて、シーツをたくし持って手前に引く(反対の頭側) *斜め頭側を向いて、シーツをたくし持って対角線に引く(反対の足元側) シーツを手をたくし持ち少しずつ出しながらマットレスの下に敷き入れる *床頭台側は中心線がずれないように/反対側はテンションをかけて 体幹の下に古いシーツ、新しいシーツの順に入れる 肩甲骨と腰部を支えて体幹の下のシーツの重なりを取り除く *体幹を傾け、2枚のシーツを取り出す 体幹の下のシーツのシワが生じていそうな箇所を重点的に引く *頭部から足元の体幹の近く(頭部・胸部・臀部)でシーツをゆっくり引く/親指を支点に
E 足元のゆるみと肩まで 覆える長さを維持してリ ネンを掛ける	足元のリネンを引かずに前腕をマットレスに添わせるように入れる *斜め足元側を向き、膝を曲げた姿勢で、足を前後に開き、前腕をマットレスに添わせるように支えている手の下 から足元側に伸ばしてリネンを入れる 前方へ重心を移動しながら四角の角を作る *斜め足元側を向き、膝を曲げた姿勢で、足を前後に開き、右手(左手)前腕を袋部分に入れ、重心を前方に移動 しながらマットレスの下のリネンを前腕で引き出す リネンの上端とマットレスの上端の長さに目測をつける *襟元を折り返す/三角に折りマットレスの上端と合わせる など長さの調節をする
F ケア空間/ケア関係を 解消する	説明する/挨拶する ベッドの高さを戻す/病床付属品を戻す/キャスターを対角線上に整える
G 患者の身体を扱う際の 身体空間を作る	実施者の上肢を差し込むための隙間を作る *片方の手で肩甲骨を支えて、上肢を向こう側の肩まで差し入れる *片方の手で腰部を支えて、上肢を腰部に差し入れる *手の甲で枕を押しながら後頭部に手のひらを入れて、頭部を支える *患者の肩関節を外転させて、上肢を体幹から離す 指先でマットレスを押しながら、シーツを体幹の下に静かに入れる
H 中心線を基にリネンを 扱う	再びリネンを広げるための中心線の目安をつける *羊毛毛布とスプレードの中心線がわかるように足元に向かってたたむ 中心線がわかるように掛けシーツを準備する *シーツの左右の角を持ち、中の部分を下に落とし、中心線が両手にくるようにさばく リネンの中心線とマットレスの中心線を合わせてリネンを広げる
I 扱うリネンを巻き込ま ずにマットレスの下に手 を差し入れてリネンを入 れる	マットレスの角を直接支え、差し込んだ手の甲の下を滑らせるように敷きシーツを入れる *斜め頭側を向き、膝を曲げた姿勢で、扱う敷きシーツを押さえずに、マットレスの下に手のひらを差し込みマ ットの角を直接支えて、差し込んだ手の甲の下を通しながら、敷きシーツを敷き入れる マットレス下のリネンの重なりを支えて、差し込んだ手の甲の下を滑らせるようにリネンを掛ける *斜め足元を向き膝を曲げた姿勢で、(扱うリネンを巻き込まないように折り返して) マットレス下に重なってい るリネンを支えるように手のひらを差し入れ、差し込んだ手の甲の下を通しながら、リネンを敷き入れる
J 患者の反応に注目する	行為の説明をする 状態の確認を行う
K 患者と協働する	協力を促す *膝を曲げてもらう/綿毛布を掴んでもらう/顔の向きを変えてもらう

\*行為の要素を実施するための方法

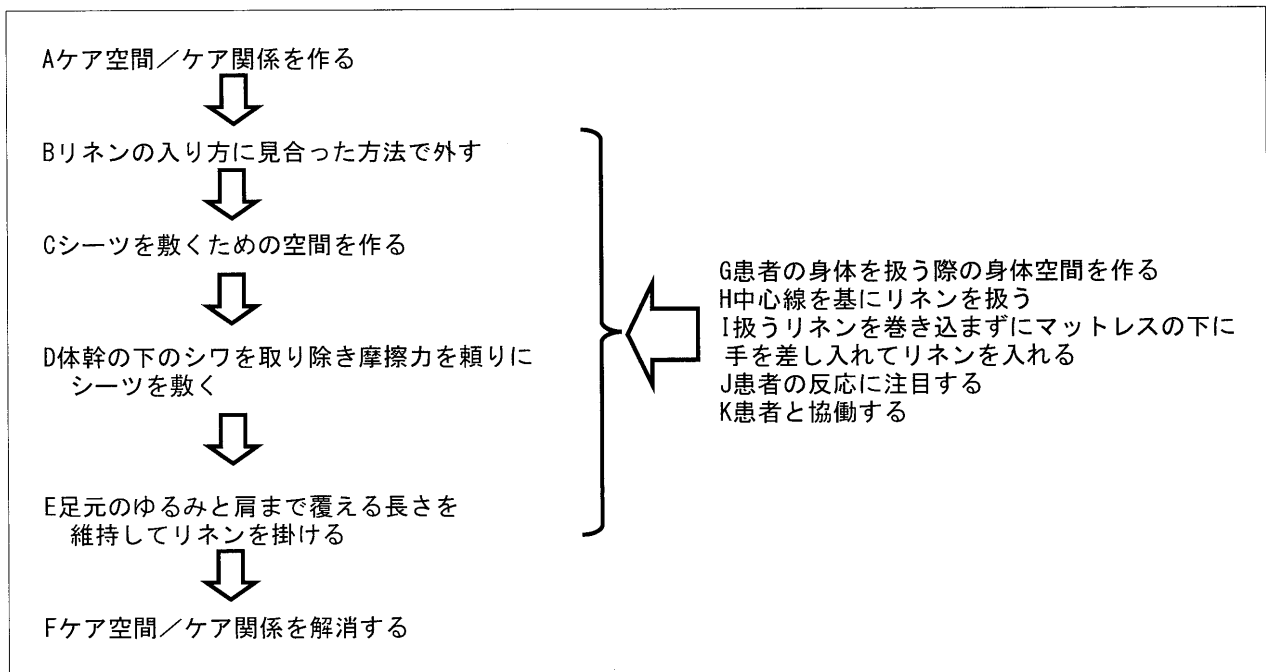


図2 リネンチェンジにおける行為のプロセス

スを示す順序性の他に、〈リネンの入り方に見合った方法で外す〉と〈体幹の下のシワを取り除き摩擦力を頼りにシーツを敷く〉の行為の要素に固有の順序性が存在する。

〈リネンの入り方に見合った方法で外す〉では、《床頭台側の角のシーツの重なりを順次に外す》で、マットレス角のリネンをマットレスの下に入っている順に引き出し、続けて、側面のリネンを《側面のリネンは頭から足元に向かってマットレスを持ち上げずに引いて外す》でリネンを外した後、《反対側の角のリネンの重なりを一気に外す》で、頭側（あるいは足下側）の三角の重なりを一度に掴んで外すという順序性が存在する。

〈体幹の下のシワを取り除き摩擦力を頼りにシーツを敷く〉では、《連続した身体の動きで三角のシーツの重なりを作る》で、シーツを引く方向と身体の動きを一致させ、連続した身体の動きでマットレスの角に三枚のシーツの重なりを作ってから、《作られている角の摩擦力を頼りにシーツを伸ばしてマットレスの下に入れる》という順序性が存在する。

2) 学生の行為の抽出

(1) 撮影映像から学生のリネンチェンジの手順を整理し、その手順にそって学生の身体の動きおよび対象者に対する身体の扱いを抽出した。

(2) (1)で抽出されたデータが、先行研究で得られたリネンチェンジの行為の要素に該当する内容かを検討した。該当する内容の場合は、先行研究で得られたリネンチェンジの行為の要素をそのまま抽出し、該当しない内容の場合は新たに学生の行為の要素をネーミングした。なお、ネーミングに関しては、Tパーソンズ<sup>8)</sup>

が提唱している行為の分析要素を参考に、行為の目的、学生の身体の動きや身体の扱いが生じる条件、他の行為への影響から分析した。

6. 倫理的配慮

学生には研究の趣旨と、研究参加は自由意思であること、不参加の場合でも不利益はないこと、途中で中断する権利の保証、成績評価には一切関係ないことを口頭および文書で説明した。その上で、同意書にサインを得た。また、研究以外にデータは使用しないことを伝えた承を得た。

結果

以下、抽出された学生の行為の要素について [ ] で示す。

1. 学生のリネンチェンジにおける行為の要素 (表2)

学生の身体の動きおよび対象者に対する身体の扱いを、先行研究で得られたリネンチェンジの行為の構造を枠組みに、学生の行為の要素を抽出した結果、11つの行為の構造のうち〈ケア関係/ケア空間を作る〉〈リネンの入り方に見合った方法で外す〉〈シーツを敷くための空間を作る〉〈体幹の下のシワを取り除き摩擦力を頼りにシーツを敷く〉〈足元のゆるみと肩まで覆える長さを維持してリネンを掛ける〉〈ケア関係/ケア空間を解消する〉〈患者の身体を扱う際の身体空間を作る〉〈中心線を基にリネンを扱う〉〈扱うリネンを巻き込まずにマットレスの下に手を差し入れてリネンを入れる〉の9つの行為において学生の行為の要素が抽出された。また、〈患者の反応に注目する〉〈患者と協働する〉の2つの行為には学生の行為の要素は存在しなかった。なお、抽出された学生の行為の要素のうち、

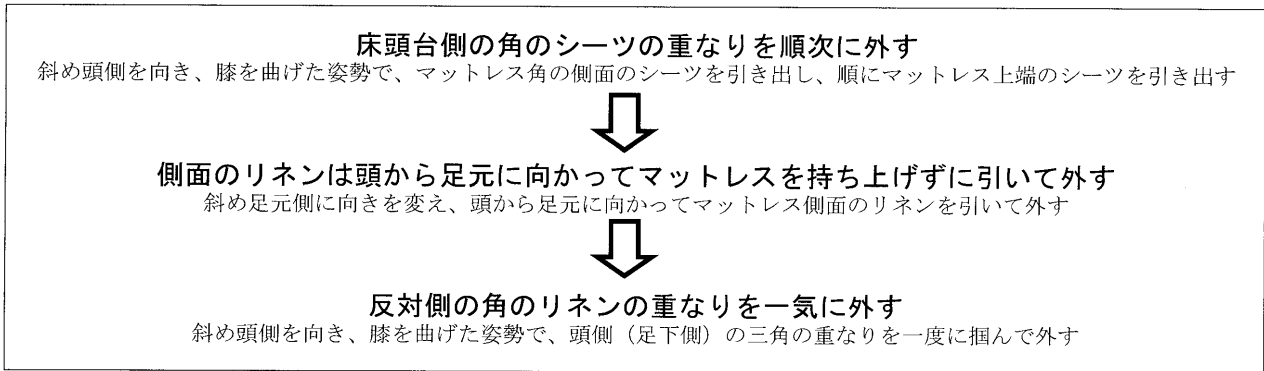


図3 <リネンの入り方に見合った方法で外す>を構成する要素の順序性

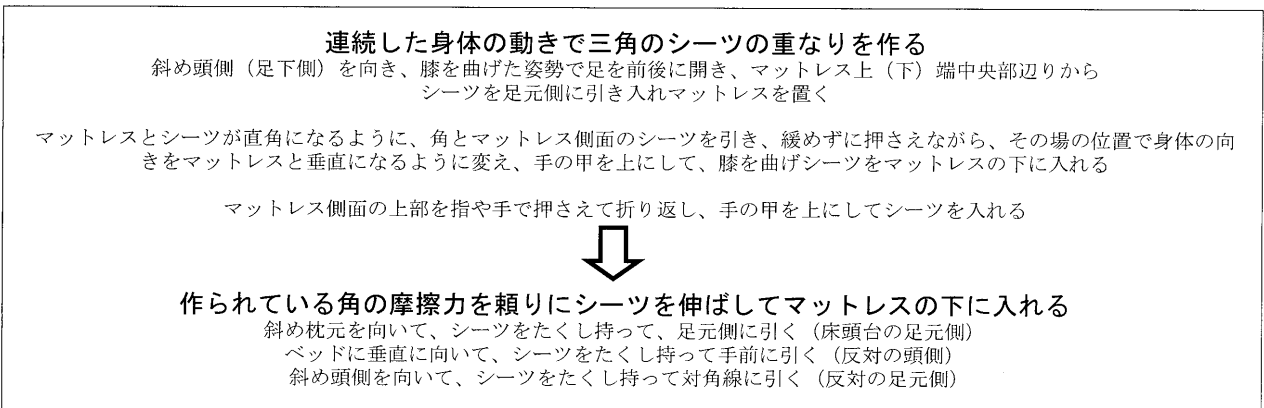


図4 <体幹の下のシワを取り除き摩擦力を頼りにシーツを敷く>を構成する要素の順序性

先行研究で得られたリネンチェンジの行為の要素と同じ内容は明朝体、新たにネーミングした行為の要素はゴシック体で示した。

<ケア関係/ケア空間を作る>の行為では、[近づく/説明する/挨拶する][ベッドの高さを調整する/病床付属品を移動する/キャスターを対角線上に整える]の行為の要素が抽出された。<リネンの入り方に見合った方法で外す>の行為では、[床頭台側の角のシーツの重なりを順次に外す][側面のリネンは頭から足元に向かってマットレスを持ち上げずに引いて外す][反対側の角のリネンの重なりを一気に外す]の行為の要素が抽出された。<シーツを敷くための空間を作る>の行為では、[新しいシーツを広げる空間を作るために患者を移動させる][側臥位の状態に古いシーツをベッドの中心辺りまで体幹に添わせる]の行為の要素が抽出された。<体幹の下のシワを取り除き摩擦力を頼りにシーツを敷く>の行為では、[上肢のみの動きで三角のシーツの重なりを作る][作られている角の摩擦力を頼りにシーツを伸ばす][シーツを引かずにマットレスの下に敷き入れる][体幹の下に古いシーツ、新しいシーツの順に入れる][肩・腰部を掴んで体幹を傾けて下のシーツの重なりを取り除く][体幹の下のシーツのシワが生じている箇所を重点的に引く]の行為の要素が抽出された。<足元のゆるみと肩まで覆える長さを維持してリネンを掛け

>の行為では、[足元のリネンを掴んで引いてマットレスの下に入れる][上肢のみの動きで四角の角を作る][リネンの上端とマットレスの上端の長さに目測をつける]の行為の要素が抽出された。<ケア関係/ケア空間を解消する>の行為では、[説明する/挨拶する][ベッドの高さを戻す/病床付属品を戻す/キャスターを対角線上に整える]の行為の要素が抽出された。<患者の身体を扱う際の身体空間を作る>の行為では、[対象者の身体とベッドとの間に隙間を作らない][実施者の上肢を差し込むための隙間を作る][指先でマットレスを押しながら、シーツを体幹の下に静かに入れる]の行為の要素が抽出された。<中心線を基にリネンを扱う>の行為では、[再びリネンを広げるための中心線の目安をつける][中心線がわかるように掛けシーツを準備する][リネンの中心線とマットレスの中心線を合わせてリネンを広げる]の行為の要素が抽出された。<扱うリネンを巻き込まずにマットレスの下に手を差し入れてリネンを入れる>の行為では、[敷きシーツを巻き込んでマットレス上げ敷きシーツを入れる][掛けるリネンを巻き込んでマットレス上げ掛けるリネンを入れる]の行為の要素が抽出された。

**2. 学生のみが実施していた行為の要素**

ゴシック体で示した新たにネーミングした行為の要素は、先行研究で得られたリネンチェンジの行為の構

表2 リネンチェンジにおける学生の行為

行 為	行 為 の 要 素
A ケア空間/ケア関係を作る	近づく/説明する/挨拶する ベッドの高さを調整する/病床付属品を移動する/キャスターを対角線上に整える
B リネンの入り方に見合った方法で外す	床頭台側の角のシーツの重なりを順次に外す *斜め頭側を向き、膝を曲げた姿勢で、マットレス角の側面のシーツを引き出し、順にマットレス上端のシーツを引き出す 側面のリネンは頭から足元に向かってマットレスを持ち上げずに引いて外す *斜め足元側に向きを変え、頭から足元に向かってマットレス側面のリネンを引いて外す 反対側の角のリネンの重なりを一気に外す *斜め頭側を向き、膝を曲げた姿勢で、頭側(足下側)の三角の重なりを一度に掴んで外す
C シーツを敷くための空間を作る	新しいシーツを広げる空間を作るために患者を移動させる *側臥位にする/仰臥位にする 側臥位の状態でごいシーツをベッドの中心辺りまで体幹に添わせる
D 体幹の下のシワを取り除き摩擦力を頼りにシーツを敷く	上肢のみの動きで三角のシーツの重なりを作る *マットレスの正面を向きながら、シーツを合わせて三角の角を作り、手の甲を上にして、膝を曲げシーツをマットレスの下に入れる シーツを引きマットレスの下に敷き入れる *引く方向の法則はない *引く力加減がどの部分も同じ 体幹の下に古いシーツ、新しいシーツの順に入れる 肩・腰部を掴んで体幹を傾けて下のシーツの重なりを取り除く 体幹の下のシーツのシワが生じているような箇所を重点的に引く *頭部から足元の体幹の近く(頭部・胸部・臀部)でシーツをゆっくり引く/親指を支点に
E 足元のゆるみと肩まで覆える長さを維持してリネンを掛ける	足元のリネンを掴んで引いてマットレスの下に入れる 上肢のみの動きで四角の角を作る *マットレスの正面を向きながら、シーツを合せて四角の角を作り、手の甲を上にして、膝を曲げシーツをマットレスの下に入れる リネンの上端とマットレスの上端の長さに目測をつける *襟元を折り返す/三角に折りマットレスの上端と合わせるなど長さの調節をする
F ケア空間/ケア関係を解消する	説明する/挨拶する ベッドの高さを戻す/病床付属品を戻す/キャスターを対角線上に整える
G 患者の身体を扱う際の身体空間を作る	対象者の身体とベッドとの間に隙間を作らない *差し入れる上肢を直接向こう側の肩まで差し入れる/腰部に差し入れる 指先でマットレスを押しながら、シーツを体幹の下に静かに入れる
H 中心線を基にリネンを扱う	再びリネンを広げるための中心線の目安をつける *羊毛毛布とスプレードの中心線がわかるように足元に向かってたたむ 中心線がわかるように掛けシーツを準備する *シーツの左右の角を持ち、中の部分を下に落とし、中心線が両手にくるようにさばく リネンの中心線とマットレスの中心線を合わせてリネンを広げる
I 扱うリネンを巻き込まずにマットレスの下に手を差し入れてリネンを入れる	敷きシーツを巻き込んでマットレス上げ敷きシーツを入れる *マットレスの側面や上(下)端を敷きシーツごと掴む 掛けるリネンを巻き込んでマットレス上げ掛けるリネンを入れる *マットレスの側面や下端を掛けるリネンごとごと掴む
J 患者の反応に注目する	※学生の行為の要素はなし
K 患者と協働する	※学生の行為の要素はなし

\*行為の要素を実施するための方法

造には存在しなかった、学生のみが実施していた内容である。以下、学生のみが実施していた行為の要素に関して述べる。

〈体幹の下のシワを取り除き摩擦力を頼りにシーツを敷く〉の行為においては、[上肢のみの動きで三角のシーツの重なりを作る][シーツを引きマットレスの下に敷き入れる][肩・腰部を掴んで体幹を傾けて下のシーツの重なりを取り除く]の行為の要素が抽出された。[上肢のみの動きで三角のシーツの重なりを作る]で、リネンを引く方向などに身体を向けずに上肢のみの動きで三角の重なりを作り、[シーツを引きマットレスの下に敷き入れる]でシーツをマットレスの下に敷き入れていた。なお、シーツを引く際は、引

く方向の法則はなく、引く力加減はどのリネンも同じであった。また、対象者の身体を扱う際に、[肩・腰部を掴んで体幹を傾けて下のシーツの重なりを取り除く]という、手のひらで対象者の身体を支えるのではなく、指で掴んで対象者の身体を扱っていた。〈足元のゆるみと肩まで覆える長さを維持してリネンを掛ける〉の行為においては、[足元のリネンを掴んで引いてマットレスの下に入れる][上肢のみの動きで四角の角を作る]の行為の要素が抽出された。[足元のリネンを掴んで引いてマットレスの下に入れる]では、掛けシーツを掴んで引きながらマットレスの下に入れていた。また、[上肢のみの動きで四角の角を作る]では、敷きシーツの三角の角と同様に、リネンを引く

方向などに身体を向けずに上肢のみの動きで四角の角を作っていた。〈患者の身体を扱う際の身体空間を作る〉の行為においては、[対象者の身体とベッドとの間に隙間を作らない]の行為の要素が抽出された。これは、上肢を対象者の身体の下に差し入れるなどの際に、もう片方の手で対象者の身体を支えてベッドとの間に隙間を作ることで、対象者の身体に負担をかけずに行為ができる。学生は、この隙間を作らずに上肢を対象者の身体の下に差し入れていた。〈扱うリネンを巻き込まずにマットレスの下に手を差し入れてリネンを入れる〉の行為においては、[敷きシーツを巻き込んでマットレス上げ敷きシーツを入れる] [掛けるリネンを巻き込んでマットレス上げ掛けるリネンを入れる]の行為の要素が抽出された。これらは、マットレスの下にリネンを入れる際に、マットレスの側面や上下端を入れるリネンごと掴んだり支えたりすることでマットレスを上げリネンを入れていた。

## 考察

結果から、〈患者の反応に注目する〉〈患者と協働する〉以外の行為において学生の行為の要素が抽出された。また、〈体幹の下のシワを取り除き摩擦力を頼りにシーツを敷く〉〈足元のゆるみと肩まで覆える長さを維持してリネンを掛ける〉〈患者の身体を扱う際の身体空間を作る〉〈扱うリネンを巻き込まずにマットレスの下に手を差し入れてリネンを入れる〉の行為において、学生のみが実施していた行為の要素が存在した。考察では、これらの学生の行為から、「リネンの目的に則したベッドを作るための身体の使い方と順序」、「対象者の身体に働きかける困難さ」の観点から、学生の行為の特徴について述べる。

### 1. リネンの目的に則したベッドを作るための身体の使い方と順序

学生のみが実施していた行為の要素のうち、[上肢のみの動きで三角のシーツの重なりを作る] [シーツを引きマットレスの下に敷き入れる] [敷きシーツを巻き込んでマットレス上げ敷きシーツを入れる]は、敷きシーツを作成する際の行為の要素であり、[足元のリネンを掴んで引いてマットレスの下に入れる] [上肢のみの動きで四角の角を作る] [掛けるリネンを巻き込んでマットレス上げ掛けるリネンを入れる]は、掛けるリネンを作成する際の行為の要素である。これらの学生の行為の要素は、リネンの目的に則したベッドを作るための身体の使い方と順序をふめないという特徴を示している。敷きシーツは対象者が臥床し直接身体と接触することから、崩れにくく耐久性があることが重要な条件である。この条件を満たすためには、三角のシーツの重なりにおける接触面積を大きくとり折り目を重ねることで摩擦力を最大にする必要性

と、シーツにシワや緩みが無く伸ばす必要性が報告されている<sup>9)10)</sup>。一方で、掛けシーツは、崩れない程度の適度な緩みがあることが重要な条件となる。つまり、同じシーツでも、敷きシーツと掛けシーツは目的が異なり、その目的に則したリネンの扱い方が求められる。[上肢のみの動きで三角のシーツの重なりを作る]に見られたシーツの扱い方では、重なりの接触面積を大きくとり折り目を重ねることはできても、三角のシーツの重なりを伸ばして敷き入れることに困難が生じる。つまり、三角のシーツに緩みを作らないためには、シーツを引き緩めずにシーツを押さえながらマットレスの下に入れることや、シーツを手にとり持ち少しづつ出しながらマットレスの下に入れるというように、シーツを伸ばすための身体の使い方が必要であるからである。この三角のシーツの重なりがもたらす摩擦力が強固でなければ、その摩擦力を頼りにシーツを伸ばすことができない。学生は[シーツを引きマットレスの下に敷き入れる]でシーツを引いているものの、三角のシーツの重なりがもたらす摩擦力が弱いために三角の角が崩れたり、どの部分のしわを伸ばすのかを意図した方向にシーツを引くことができない。さらに、[敷きシーツを巻き込んでマットレス上げ敷きシーツを入れる]でマットレスを入れるリネンごと掴んだり支えたりするため、しわが伸びない要因となり崩れにくく耐久性がある敷きシーツを作ることが困難となるのである。掛けシーツの作り方を見てみると、[足元のリネンを掴んで引いてマットレスの下に入れる]では、掛けシーツを対象者の足の長さや足底の高さといった対象者の身体にあわせて緩みを作ることは困難である。緩みを作るためには、引くという行為ではなく、対象者の身体を看護者の腕で感じ取りながらマットレスに添わせてシーツをマットレスの下に入れる行為が必要になるからである。さらに、[掛けるリネンを巻き込んでマットレス上げ掛けるリネンを入れる]でマットレスを入れるリネンごと掴んだり支えるために緩みを調節することができない。この緩みを作るという点では、[上肢のみの動きで四角の角を作る]の行為の要素で緩みを作ることができていたが、三角の角を作る際と同様にシーツ引くことが適切にできないため、特にマットレスの角の緩みが大きく、崩れない程度の適度な緩みという条件を作ることができないと考えられる。

### 2. 対象者の身体に働きかける困難さ

〈患者の反応に注目する〉〈患者と協働する〉の行為の要素が存在しない結果と、[対象者の身体とベッドとの間に隙間を作らない] [肩・腰部を掴んで体幹を傾けて下のシーツの重なりを取り除く]に見られた対象者への身体の扱いは、対象者の身体に働きかける困難さという特徴を示している。リネンチェンジは、



単にシーツの扱いではなく、離床できない対象者の安全や安楽さを保ちながら生活する環境を整えるという、対象者に働きかける看護技術である。〈患者の反応に注目する〉〈患者と協働する〉の行為の要素が存在しない結果は、先行研究である血圧測定技術における学生の行為の特徴と一致する。学生の血圧測定技術において、上腕という測定部位に注目するため、対象者の反応などには注目することが難しく、受け手の身体と向き合えないという特徴が明らかになった<sup>7)</sup>。つまり、リネンチェンジが単にベッドのシーツ交換になっていることを示し、対象者の眼差しや表情など身体から発せられるサインを捉えるという看護技術としての目的が崩れることを意味しているといえる。さらに、[対象者の身体とベッドとの間に隙間を作らない] [肩・腰部を掴んで体幹を傾けて下のシーツの重なりを取り除く]の行為の要素に見られた対象者の身体の扱いは、無理に実施者の腕を差し入れたり、対象者の身体を掴むことで対象者の安楽を阻害する。従って、対象者の身体に働きかける困難さは、シーツや毛布といった複雑で多くの物を扱いながら対象者の身体から発せられるサインを捉えることと、対象者の身体そのものの扱い方が内包されているといえる。

## 結論

先行研究で得られたリネンチェンジの行為の構造を枠組みに、リネンチェンジにおける学生の行為を抽出し特徴を考察した結果、以下の点が明らかになった。

1. [上肢のみの動きで三角のシーツの重なりを作る] [シーツを引きマットレスの下に敷き入れる] [足元のリネンを掴んで引いてマットレスの下に入れる]などの行為の要素から、リネンの目的に則したベッドを作るための身体の使い方と順序をふめないという特徴が明らかになった。これは、崩れにくく耐久性がある敷きシーツや、崩れない程度の適度な緩みがある掛けシーツを作ることが困難であると考えられた。
2. 〈患者の反応に注目する〉〈患者と協働する〉の行為の要素が存在しない結果と、[対象者の身体とベッドとの間に隙間を作らない] [肩・腰部を掴んで体幹を傾けて下のシーツの重なりを取り除く]に見られた対象者への身体の扱い方から、対象者の身体に働きかける困難さという特徴が明らかになった。これは、シーツや毛布といった複雑で多くの物を扱いながら対象者の身体から発せられるサインを捉えることと、対象者の身体そのものの扱い方の困難さが内包されていると考えられた。

- 1) 平典子, 明野伸次, 伊藤祐紀子, 鹿内あずさ, 花岡真佐子. 看護技術における行為の構造化 (第1報) - 血圧測定における身体性, 順序性の特徴 -, 北海道医療大学看護福祉学部学会誌2006; 2(1): 89-

- 94.
- 2) 伊藤祐紀子, 鹿内あずさ, 平典子, 明野伸次, 花岡真佐子. 看護技術における行為の構造化 (第2報) - ガウンチェンジにおける身体性, 順序性の特徴 -, 北海道医療大学看護福祉学部学会誌2006; 2(1): 95-101.
- 3) 明野伸次, 平典子, 鹿内あずさ, 伊藤祐紀子, 花岡真佐子. 看護技術における行為の構造化 (第3報) - 血圧測定における原則の観点から -, 北海道医療大学看護福祉学部学会誌2007; 3(1): 53-59.
- 4) 鹿内あずさ, 伊藤祐紀子, 明野伸次, 平典子, 花岡真佐子. 看護技術における行為の構造化 (第4報) - ガウンチェンジにおける原則の観点から -, 北海道医療大学看護福祉学部学会誌2007; 3(1): 61-67.
- 5) 明野伸次, 平典子, 鹿内あずさ, 伊藤祐紀子, 花岡真佐子. 看護技術における行為の構造化 (第5報) - リネンチェンジにおける身体性, 順序性の特徴 -, 北海道医療大学看護福祉学部学会誌2008; 4(1): 95-101.
- 6) 鹿内あずさ, 伊藤祐紀子, 明野伸次, 平典子, 花岡真佐子. 看護技術における行為の構造化 (第6報) - シャンプーにおける身体性, 順序性の特徴 -, 北海道医療大学看護福祉学部学会誌2008; 4(1): 102-107.
- 7) 明野伸次. 血圧測定技術における学生の行為の特徴 - 身体性, 順序性の観点から -, 北海道医療大学看護福祉学部学会誌2010; 6(1): 63-70.
- 8) Tパーソンズ (稲上毅, 厚東洋輔訳). 「社会的行為の構造」, 木鐸社, 1976.
- 9) 金津春江. ベッドメイキングの意義とシーツのずれに関する一考察, 大阪体育大学短期大学部研究紀要2008; 9: 137-145.
- 10) 須賀京子, 長野きよみ, 百合純子, 宇佐美千鶴代, 小黒由美子. ベッドメイキングにおけるシーツの角の崩れにくさ - シーツの角の処理方法による違いとその要因 -, 愛知きわみ看護短期大学紀要2007; 3: 39-45.
- 11) 梶谷佳子, 榎田守子, 伊藤ちぢ代, 山川加世子, 豊島至予子. 学内演習における生活援助技術の習得度(2) - 実技試験「下シーツ交換」の結果より -, 神戸市看護大学短期大学部紀要2001; 20: 1-10.

受付: 2010年11月30日

受理: 2011年2月2日